## 令和 6 年度の研究（または活動）内容

生活環境と一体となった歴史的建造物や古い町並みといった身近な地域文化財や伝統文化は、長い年月をかけて地域で醸成されたサステイナブルな「伝統知」を備える。よって、地域文化財には、単なる歴史的遺産としての価値にとどまらず、未来の地域のあり方の参照となりうる「持続可能な地域づくり」のヒントが秘められていると考えられる。本プロジェクト研究所は建築史、地域防災、環境保全、映像学、歴史資料学といった、人文学と建築学、環境学にまたがる異分野融合と地域連携を重視し、「文化財の価値を守り、未来へ伝え、持続可能な地域づくりへ活かす」という複合新領域の形成を目指すものである。

特に本プロジェクト研究所は、本学の研究シーズに基づく異分野融合の試行を意識し、かつ地域での実践活動（地域連携）を重視していることから、以下では地域・異分野融合の枠組みごとに、本年度の活動を述べていく。

### 1)　歴史的町並みの文化財的価値を守る防災計画 ： 文化財保存×地域防災 【青森県弘前市】

2018－2019 年度に青森県弘前市による伝統的建造物群保存活用計画の策定調査、および 2021 年度－2022 年度に文化財防災計画調査を受託したことから、弘前市の歴史的町並みの保存活用に関する支援を継続している。

特に今年度は津軽地方が記録的な積雪に見舞われ、2021－2022 年度の調査でも対象とした文化財の雪害に関する状況が具現化しており、文化財被害の状況把握や復旧策に関する支援にも取り組んだ。2021－2022 の文化財防災計画の調査提言においては、雪害対策には自助・公助・共助の各段階における除雪といった普段のソフト対応の重要性を盛り込んだものの、伝統木造建築特有な物的な被害も生じており、東北地方における文化財防災においては雪害が重要課題であることを改めて認識している。

伝統建築や古い屋敷構え独特な町並みにおける「防災訓練」のあり方も継続的なテーマであった。本年は、伝統的建造物群保存地区での防災訓練のあり方を見直す機会として、町会・町並み保存会の関係者を対象として、オンライン併用で「発災対応型」防災訓練の講和と意見交換会を実施し、次年度以降の防災訓練では、燃えやすい茅葺き民家やその周辺家屋の状況を想定した防災訓練が実現できるよう、地元町会と知見を深めた。

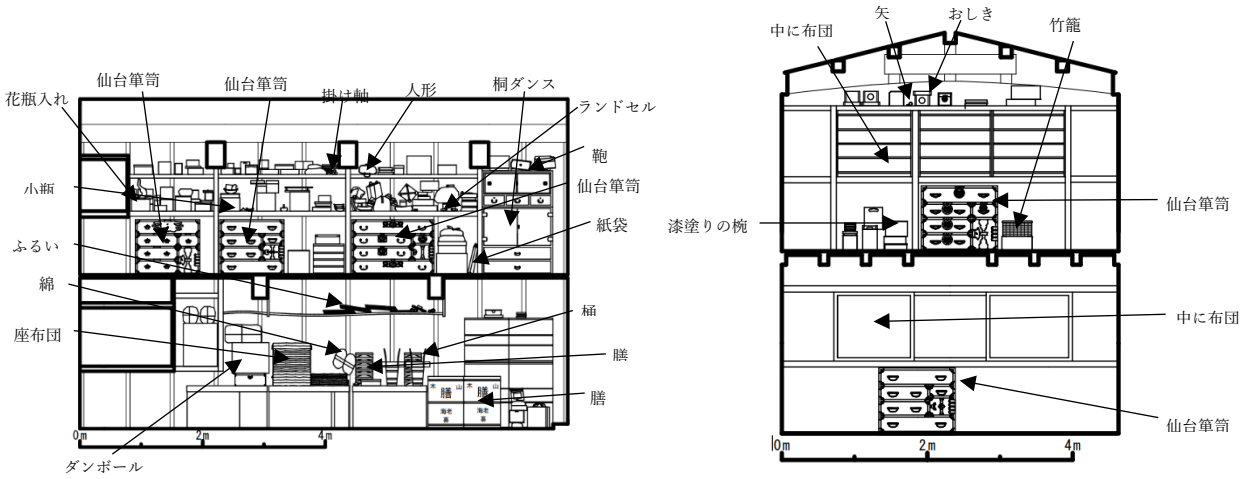
### 2)　学内公募研究による文庫蔵の資料調査と環境測定 ： 歴史資料×環境工学 【宮城県登米市】

宮城県登米市は、宮城県内でも優れた歴史的建造物が集積し、本プロジェクト研究所でも様々な地域活動に取り組んできた。

今年度は、本学の学内公募研究の採択を得て、「人文学と建築史、環境工学が連携した伝統的な文庫蔵の記録化と文化財保存環境の評価」に取り組んだ。

登録有形文化財の文庫蔵を研究対象として、収蔵された歴史資料（家財道具や古文書、家のアルバムといった近世から近現代に至る多様な伝来品）のアーカイブとその収蔵の作法という人文学的知見と、データロガーによる温湿度環境測定を融合した研究プロジェクトである。環境工学のアプローチからは、伝統的な土蔵がもつ優れた収蔵環境の特性（ゼロカーボンによる安定的な温湿度環境）が抽

出されるとともに、文庫蔵がもつ歴史的価値を収蔵品のジャンルと保管作法から意義づける知見を得ている。




多様な歴史資料を収蔵する文庫蔵の記録化

### 3)　SDGs環境学習プログラムの実践　：　文化財保存×環境工学【宮城県石巻市】

2025 年 2 月 22 日、環境生態工学研究所が主催する北上川河口域の茅刈り体験学習会に、環境応用化学科・山田研究室と建築学科・中村研究室の学生が参加し、水環境と建築学双方の領域にまたがる学生の実践的な学びの活動をした。また昨年、2023 年度の同実習で刈り取ったヨシを用いて、弘前市公開武家住宅の茅葺き民家「青森県重宝・旧岩田家住宅」でほうきづくりのワークショップを実施し、文化財保護と環境保全の関係を学ぶ SDGs 学習の提案実践も行った。

SDGsワークショップは好評で、自治体や地域団体から開催要請が多く、次年度も青森県弘前市、岩手県一戸町、宮城県涌谷町などの文化財建造物での開催を企画している。

北上川のヨシ刈り（宮城県石巻市）と SDGsワークショップ（青森県弘前市）

### 4)　被災文化財の復旧支援 ： 展示デザイン【岩手県陸前高田市】

建築学科 中村研究室では岩手県指定文化財・旧吉田家住宅の復旧支援に 2016 年以来、継続的に取り組んできた。文化財レスキュー・復旧計画と工事、展示活用に及ぶ 14 年間の長い期間を経て、2025 年の復旧完成・一般公開を控えて、2024 年度は旧吉田家住宅で展示される模型や展示パネルの素材づくりなどの展示デザインを支援している。被災前の模型や周辺の町並みのスケッチ制作など、2025 年度も継続して支援活動に取り組む。

被災文化財とその周辺の再現模型の制作